

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和4年5月9日発行 文責 校長 大島 和子

風薫る5月となりました。4月に入学した1年生も入学式当日の緊張した表情から、元気な笑顔へと変わってきました。先日の学校探検でも、大きな声で「失礼します。」と言って校長室へ入ってきました。登校時もお兄さんお姉さんに見守られながらしっかり歩き、元気にあいさつをしています。この1ヶ月の成長は目を見張るものがあります。今後も、子どもたち一人一人の成長をチーム郷学館で支えていきたいと思ひます。

<入学式後の教室でのようす>



◎ふるさとを学んだ「ふるさと探訪」(7年～9年)

5月2日に、3年ぶりに当初の計画どおりの「ふるさと探訪」を実施しました。この探訪は、平成22年度から始まり、3方面を3年かけて回り、今年で5周期目となりました。今年も、小嶋先生、松本先生に詳しい説明をしていただきながら、高瀬・大曲方面を探訪しました。

<化石を探しているようす>



三日月湖では流水のはたらきを、足神様ではその由来を、岩坂井堰では井堰の構築の歴史と岩石の種類を学ぶことができました。岩石の説明を受けた後に、今いる場所が海底だったことが分かる化石をみんなで

探し、いくつかの貝の化石を見付けることができました。最後に訪れた住吉天神社では、過去の水害の記録が刻まれた板壁や石碑を見ることができ、水害の大きさを実感することができました。

探訪の終わりの解散式で、両先生より、「大人になってもふるさとのことを一生懸命に考える人になってほしい」「この探訪が懐かしい学校行事として記憶に残り、よい思い出になってほしい」という言葉をいただきました。改めて南波多の歴史や人々の思いに触れ、ふるさとを学ぶことができました。また、当日は、7年生が出発式・解散式の進行を立派に務め、ステージ2のリーダーらしさを感じました。

<河岸段丘の説明を受けているようす>



<水害の記録を確認しているようす>



<公園で交流しているようす>

◎1年生との親睦を深めたなかよし遠足(1年～6年)

「ふるさと探訪」と同日に、1～6年生は1年生との親睦を深めるとともにステージ間の交流を図ることを目的に、笠椎公園までの「なかよし遠足」を行いました。片道約2.8Kmの道のりでしたが、みんな元気に歩くことができ、公園で楽しい時間を過ごしました。



また、トイレ休憩等で笠椎公民館や源光寺に協力していただきました。ありがとうございました。ふるさと探訪でも、高瀬公民館、水留公民館にご協力いただきました。

◎地域の方々の協力をいただいています

◇シバハギの種まき(7年生)

4月13日にタイワンツバメシジミ保存会の皆様のご協力のもと、シバハギの種まきを行いました。シバハギの発芽には、温度・水・空気が必要であることを、2千年ハスを例に教えていただいた後、4つのグループに分かれて種まきを行いました。シバハギはマメ科の多年草で、低い産地の日当たりのよい草原などで生育し、8月下旬から9月上旬にかけて開花します。タイワンツバメシジミのメスはシバハギに産卵し、ふ化した幼虫は、主にシバハギの花やつぼみ、未熟の種子を食べて成長します。現在、タイワンツバメシジミは環境省の「絶滅危惧1B類」に選定されており、県内では大野岳以外ではほとんど見ることができなくなっているそうです。今回蒔いたシバハギは、9月に大野岳に移植する予定です。(7年生が毎日水まきを行い、小さい芽がたくさん出てきています。)



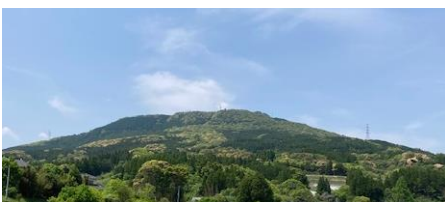
◇交通安全教室



4月20日に行った交通安全教室では、交通安全指導員の皆さんや駐在所の方の協力をいただき、横断歩道の渡り方や自転車に乗る際のルールについて実際に渡ったり乗ったりしながら学びました。南波多町も交通量が増えています。日頃から安全に気を付けてほしいと思います。



◎ 大野岳の姿から・・・



左の写真は、大曲地区から見た大野岳です。学校から見える大野岳は三角形ですが、見る場所を変えると台形に見えます。一方向からでは物事の一部しか見えていないということを実感しました。子どもたちも多方向から見ていかなければと改めて思ったところです。

◎ 第5回体育大会を行います。

5月22日(日)に体育大会を開催いたします。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、観戦者の制限や競技内容の変更を行った上での開催となります。詳細につきましては、後日お知らせいたします。